

1 - 6 襟裳岬沖の地質構造

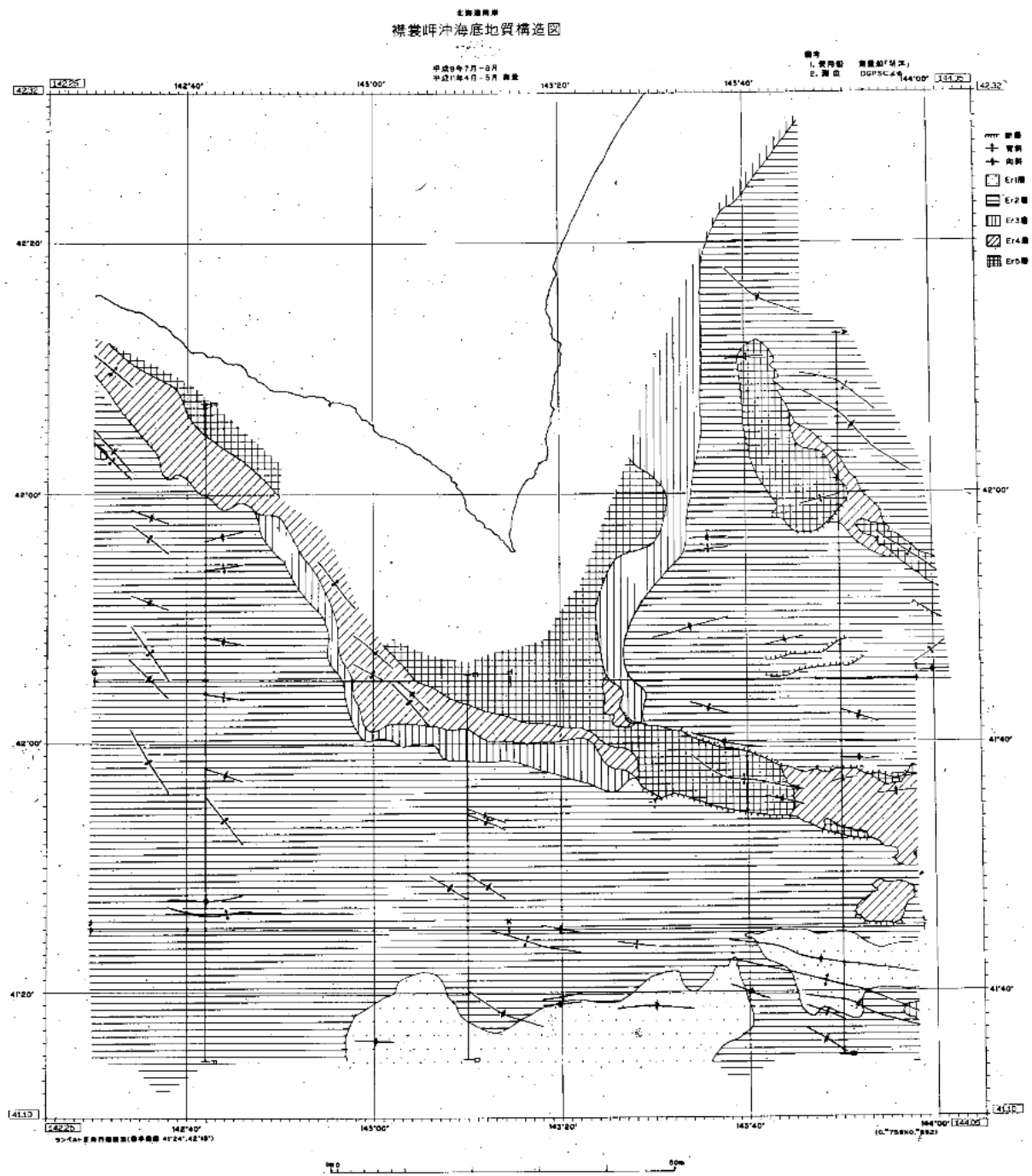
Submarine geological structure off Erimo misaki

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Japan Coast Guard

調査は平成 9 年 7 月 - 8 月及び平成 11 年 4 月 - 5 月で、測線方向は南北、測線間隔は経度 4 分としエアガン (GI-150) を用いた。調査は三石南方から広尾北東方の大陸棚から大陸斜面にかけての区域で実施した。調査区域の地層は音響的層相の相違や不整合を基準とし、上位より Er1 層から Er5 層までの 5 層に区分した。

断層、褶曲の方向は東西及び北西 - 南東方向が卓越し、大陸斜面に分布する褶曲の大部分は Er2 層以下を変形させている。大陸棚、南広尾海脚及び襟裳堆とこれに続く隆起部の褶曲は、Er4 層以下もしくは Er5 層を変形させている。襟裳岬東方の 2 本の断層は Er2 層以下を変位させ、変位は海底面におよんでいる。大陸斜面には地滑り地形が散在し、地滑りの規模は幅 4km ~ 7km、高さは 300m ~ 400m に達している。地滑り地形は Er2 層が地滑りを起こし形成されている。

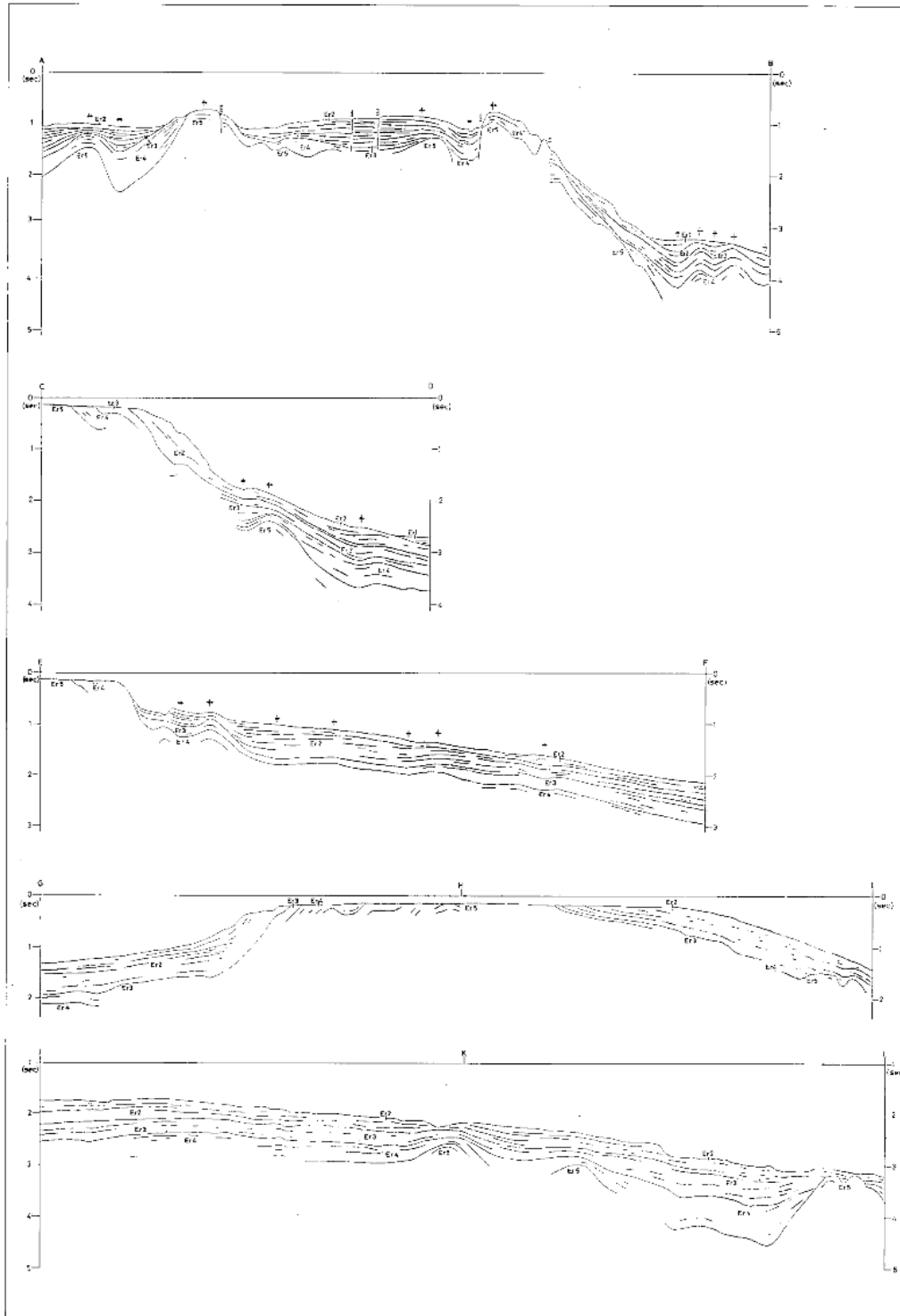


第 1 図 襟裳岬沖海底地質構造図

Fig.1 Submarine geological map off Erimo misaki.

大東洋海峽
襟裳岬沖海底地質断面図

昭和四十七年一月
昭和四十七年一月 完成



第 2 図 襟裳岬沖海底地質断面図

Fig.2 Submarine geological section off Erimo misaki.

